

令和7年9月号



春日部セントノア病院

〒344-0001
埼玉県春日部市不動院野1112-1
TEL048-760-1200
FAX048-760-1201
<https://www.saintnoah-kasukabe.jp>



～目次～

- 病院短信
 - 日常の一コマ
 - いきいき看護・介護
 - 栄養科だより
 - 花火鑑賞会
 - スタッフ紹介
- 小川 育子
立川 まみ
鶴見 恵子
穴久保 沙耶香
デイルームにて
木村 収実

9月の予定

◇誕生日会

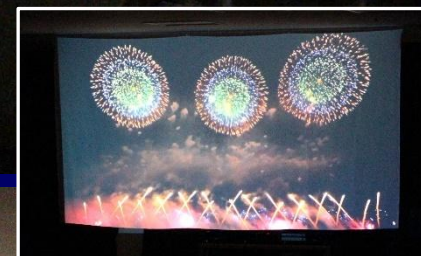
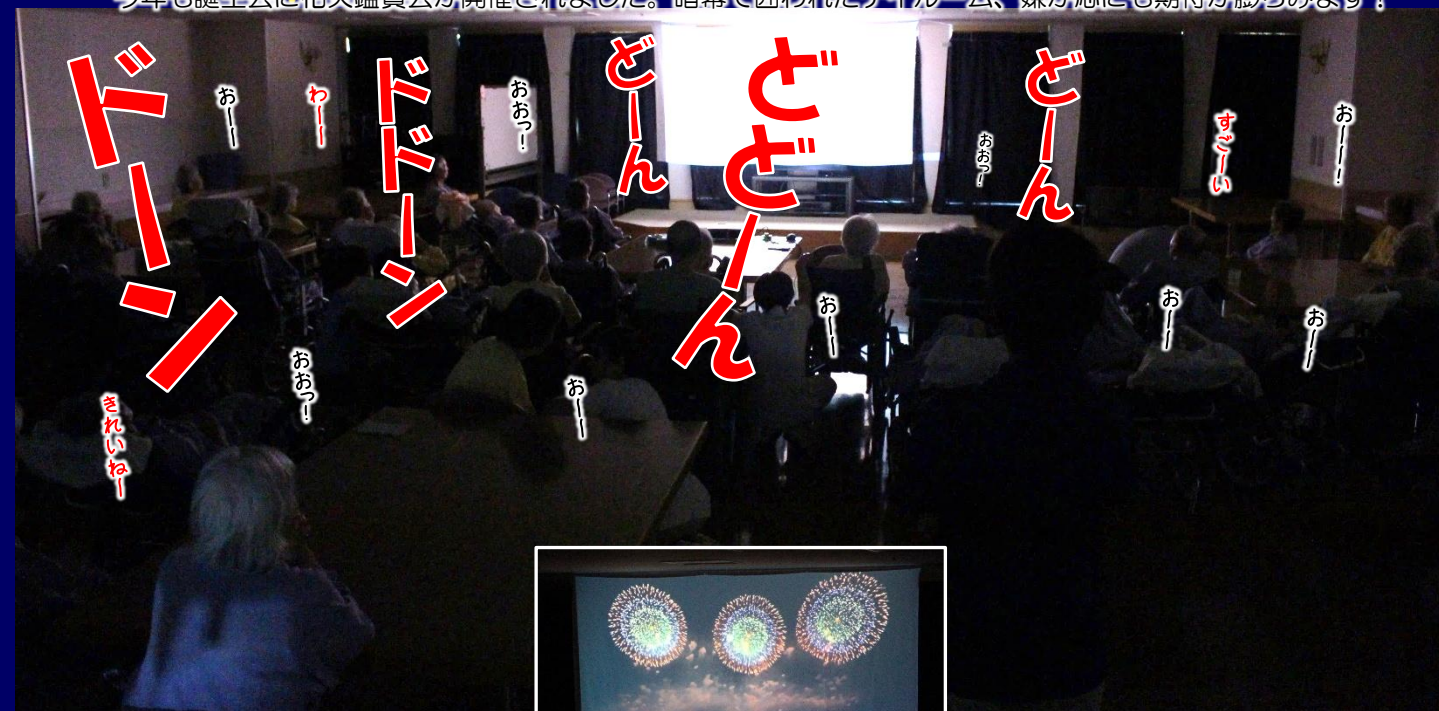
1病棟	9月12日(金)
2病棟	9月8日(月)
3病棟	9月9日(火)
各病棟デイルーム 14:00～	



花火鑑賞会



今年も誕生会に花火鑑賞会が開催されました。暗幕で囲われたデイルーム、嫌が応にも期待が膨らみます！



特製大スクリーンと大音量のド迫力に大歓声が上がります。日本の夏の風物詩、少しでも味わって頂けましたか？

スタッフ紹介

臨床検査技師
きむら おさみ
木村 収実

苦手な事：歌う事・踊る事
好きな事：お稽古事



お稽古事が大好きで、編み物、フラワーアレンジ、パッチワーク、カリグラフィ、布花、グラスアート、押し花、和裁、着物着付け、洋裁などのお教室に通いました。コロナ流行以降、お稽古事の先生はYouTubeです。新たなお稽古事をYouTubeで探してみようと思います。



病院短信

『救世病院』

3病棟看護師長

小川 育子

令和7年7月16日付けをもちまして、宮川妙子師長の後任として3病棟の看護師長に就任いたしました。重責に身の引き締まる思いで日々を過ごしております。その中で患者さん、ご家族の笑顔、スタッフの皆様方に助けられ、支えて頂き、本当に感謝しております。

春日部セントノア病院に勤務して16年となりました。

私が幼い頃、いとこの家での出来事です。いとこの2歳上のお姉さんが、「あの部屋には入ってはダメ。おばけがいるから」と、日中なのに暗く、襖が閉まっている奥の部屋を指でさしました。その部屋から、ちよつと物音がするだけで「きやー」と悲鳴をあげていました。本当におばけがいると信じて。

それから数十年が経ちました。あのときのことをふと思い出して、母へ確認しました。叔母が認知症のおじいさんを介護していたとのことでした。もう45年以上前のことであり、認知症でなく痴呆症と呼ばれていました。しかも、世間に多くは知られていませんでした。徘徊、異食、奇声。社会のサポートがなかったころ、相談に行っても「あなたの親でしょう」と、一言交わされただけでした。それからずつと一人で介護していたとのことでした。

孤独であり、計り知れないほどの苦労があつ

たのだと、想像を絶する思いで話を聞いてました。その時が、私と認知症の出会いでした。現在でも、一般病院で認知症の患者さんの入院継続はなかなか難しいようです。

軽度であつても自宅で一人にすることは不安です。当院はそのような方々の行き場のない患者さんを抱えたご家族の方が、安心して過ごせる「救世病院」だと思っています。

両親、家族。とても大切です。しかし、一番は自分です。自分が幸せでなければ、皆を大切に幸せにできないと。

なので、仕事、子育て、旅行、趣味などを思う存分、充実させてください。そして、御両親や御家族にお会いしたくなった時、どうぞ面会へいらしてください。

面会では、そのひとときを大事に大切にお過ごしください。



栄養科 だより

管理栄養士 穴久保 沙耶香

食中毒警報をご存じでしょうか。一部の自治体で取り入れているようです(埼玉県なし)。

これは気温の上昇と食中毒の発生件数に相関関係があるのではないかという観点から、各自治体の条件にそって発令されます。お隣の千葉県ではこの夏は6月に一度、さらに危険が増したと7月にも期間を9月30日までとする警報が発令されました。

食中毒予防の基本三原則は、「**細菌を付けない・細菌を増やさない・細菌をやっつける**」

です。わかりやすい例だと、「きれいな手で食材を扱う」「常温放置をしない」「調理は加熱温度と時間をしっかりかけ生焼けで食べない」、そして「下処理で使用した調理器具は熱湯消毒や漂白などを行う」などがあげられます。まな板は包丁傷に食材が入りこみやすく、洗浄しただけだと不安が残るため、用途ごと(生魚や生肉などを下処理するものと、調理後や生食で使用するもの)に分けます。

最近は使い捨てのまな板シートが売られていますので、そちらを利用するのもお勧めです。調理器具を熱湯消毒する場合は、必ず洗浄したあとに行います。洗わずに熱湯を先かけると、たんぱく質が熱凝固してしまい、落としにくくなる場合があります。使用したスポンジも一緒に熱湯消毒ができればより安心です。

まだまだ暑い日が続きますので、食中毒と熱中症にはお気を付けください。



いきいき看護・介護

3病棟 看護師 鶴見 恵子

残暑が続く今日この頃、季節の変わり目に近づきました。9月に入ると朝晩の気温が下がり、涼しさを感じるようになります。寒暖の厳しい秋は自律神経のバランスが崩れやすく、気温の変化に体が対応できなくなると「なんとなく体がだるい」「胃腸の調子が悪い」「疲れやすい」「頭痛がする」といった体調不良の原因となります。このように夏の疲れが残った状態での気温の変化による、自律神経の乱れや血行不良が体調の変化となり、秋バテを引き起こします。

秋バテかなと思ったら注意したい事項をまとめました。

- ・睡眠を十分にとりましょう。
- ・消化が良く、栄養バランスのとれた食事を心がけましょう。
- ・ストレスを溜めないように適度に発散するようにしましょう。
- ・入浴はシャワーで済ませず、お湯に浸かりましょう。
- ・エアコンを冷やしすぎないように、注意し温度調節をしましょう。
- ・冷たい飲み物を取りすぎないようにしましょう。

温暖化の影響もある中、まだまだ暑い日が続きます。冷房冷えや内臓冷えは自律神経に負担がいくので気をつけたいと思います。出来ることから始め、ベストな自分でいられるように、気を付けて過ごしましょう。

日常の一コマ

今月は1病棟の好夫さん(76歳)をご紹介します。

好夫さんは東京都にて4人兄弟の末っ子として誕生されました。造船会社で働きながら定時制高校を卒業し、休日には仲間や兄弟とスキーに出かけることがとても楽しみだったようです。20歳を過ぎた頃から周囲には聞こえない声が聞こえるようになり、外出が減っていきました。20代半ばに精神的なご病気と診断され入院。その後、体調が良い時にはアルバイトをし、ガソリンスタンド、写植、ホテルの清掃員、電気関係の内職などさまざまな仕事を経験されました。59歳頃からは独居生活となりましたが、もともと多量に薬を服用してしまう傾向があり、転倒や骨折で入退院を繰り返していました。ご兄弟の協力や在宅サービスを利用しながら生活を続けていましたが、68歳の時にベッドから転落し、長時間動けない状態であるところを発見されました。左血気胸、左肋骨骨折で入院し、認知機能の低下も見られ、一人暮らしの継続が困難となったため、平成29年3月に当院へ入院されました。

入院当初の好夫さんはスタッフに頼ることが多かったそうです。それから7年が経ち、体調が優れない時には「お風呂に入りたくない」「車イス押してくれる？」などと弱音を口にすることもあります。薬物調整や会話の時間を通じ、出来ることは出来る限りご自身で行えるようになってきました。好夫さんは1階の談話室で過ごすひと時をとても楽しみにされています。コーヒーやジュースをゆっくり味わいながら窓の外を眺めたり、散歩したり、スタッフや他の患者様と世間話をする時間は大切なリラックスタイムとなるようです。そして好夫さんは毎日欠かさずメニュー表をチェックしています。「今日のご飯は何?」と聞くと教えてくれて、「ポテトサラダが食べたい」「りんごが入っているととってもおいしいんだよ」と食べたそうにお話ししてくれました。好夫さんが最近気になっているのはお米の値段です。ニュースもしっかり見ていて、「お米の値段はいくらぐらい?」と時々聞かれます。昔の記憶と今を比べながら話していただきます。

そんな何気ないやり取りがこれからも続き、好夫さんらしく穏やかに生活できるよう、スタッフ一同で支えていきたいと思います。

1病棟 介護福祉士 立川 まみ

